

詳説世界史講義①

～2026年～



第3講

帝政ローマ・キリスト教の成立・発展
ゲルマン民族の大移動

男の子

勝

稔

誠

大輔

女の子

和子

幸子

愛

聖子

ガリラヤ湖



ペテロ



ベツレヘム



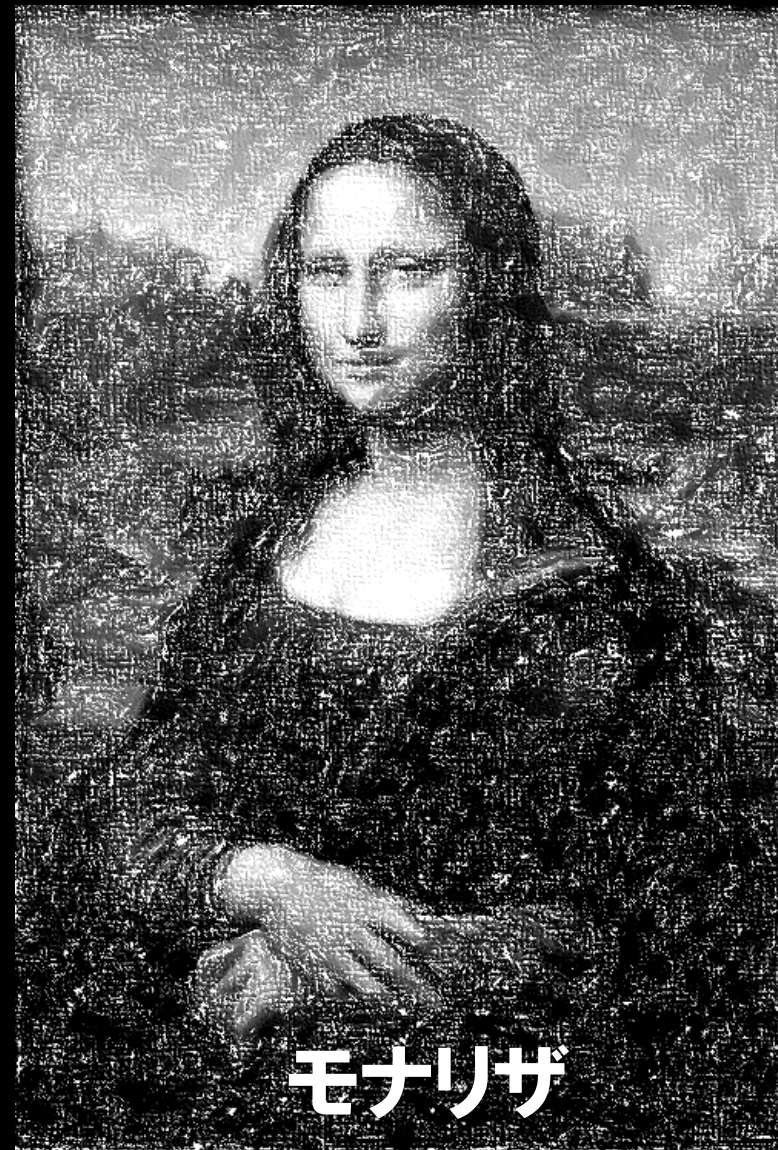
生誕教会

イエスの奇跡



カナの婚礼

ルーヴル美術館



モナリザ



カナの婚礼教会
（@ナザレ郊外）
『ヨハネの福音書』

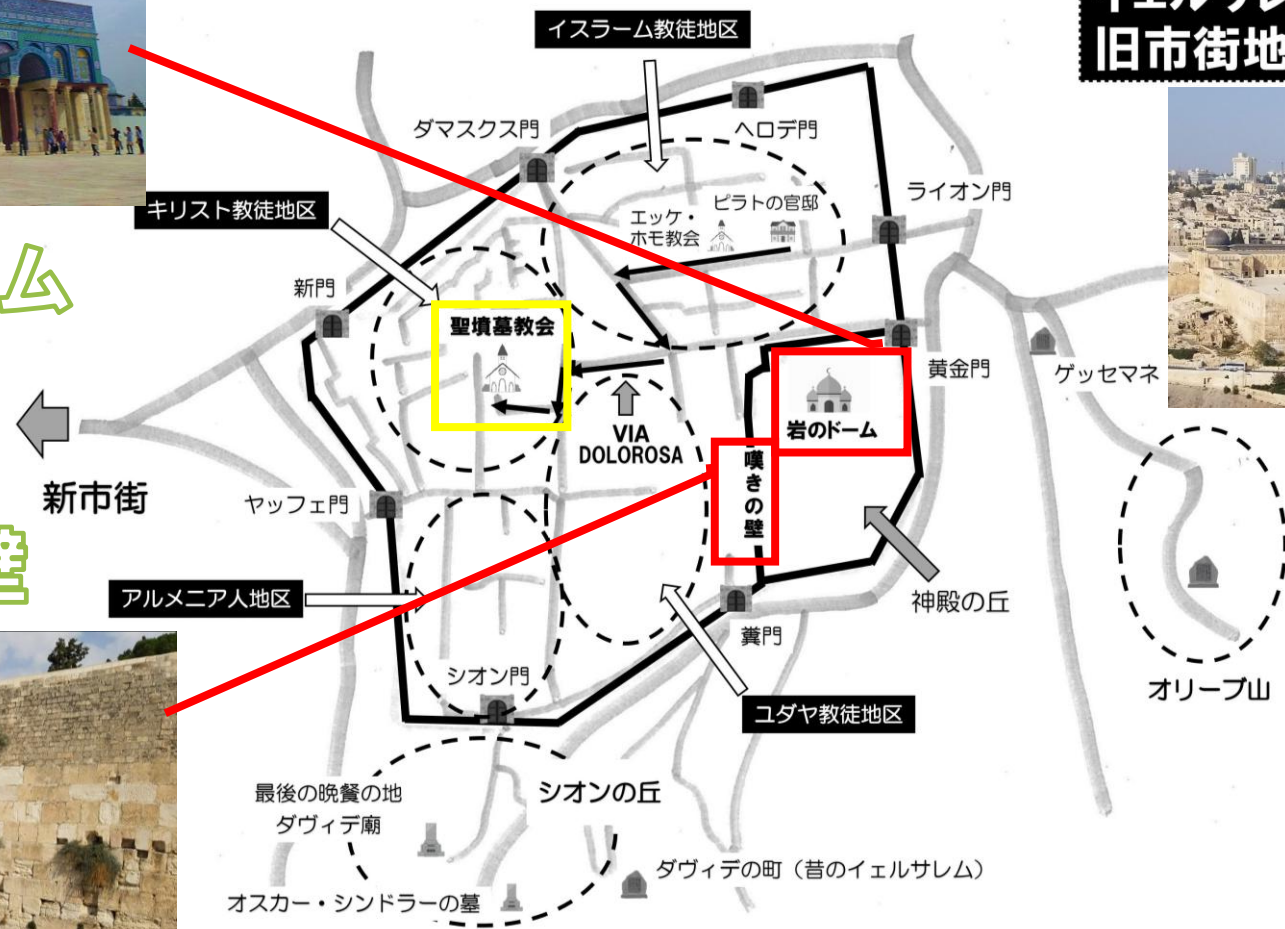


岩のドーム

嘆きの壁



イエルサレム 旧市街地図



ビア・ドロローサ (悲しみの道)





聖墳基教会

§5：キリスト教の成立・発展

①キリスト教の成立〈ティベリウス帝時代〉 *『旧約聖書』は ① 語

30年：属州ユダヤ総督〈ピラト〉により十字架刑（← ② 派の訴え）

1c：使徒ペテロ・パウロの伝道 → 2c：『 ③ 』成立（ ④ で記述） 神の絶対愛と隣人愛

*ネロ～ディオクレティアヌスの大迫害（× ⑤ にて信仰を維持）

⑥ 年：ミラノ勅令で公認 → 380年：強制 → ⑦ 年：国教化（五本山の形成）

②教義上の統一…三位一体説

①325年： ⑧ 公会議（アタナシウス派×アリウス派）

②431年： ⑨ 公会議（ネストリウス派の異端化）

③451年： ⑩ 公会議（単性論の異端化）

異端はどこへ

*アルメニア教会
*コプト教会

※ ア ⑪ 『教会史』 ⑫ 『ウルガタ』 ウ ⑬ 『告白録』・『神の国』

※ イシス教やミトラ教の信仰（東方起源の密儀宗教）

■主要な公会議

開催地（年代）	位 置	召集者	内 容
A (325)	小アジア東北部	コンスタンティヌス帝 (ローマ皇帝)	アタナシウスの三位一体説を正統とし、キリストの人性を強調するアリウス派を異端とする。
B (431)	小アジア西南部	テオドシウス2世 (東ローマ皇帝)	キリストの神性と人性の区別を主張とするネストリウス派を異端とする。
C (451)	小アジア東北部 (コンスタンティノブル対岸)	レオ1世 (ローマ教皇)	キリストの中に神性と人性が融合しているとする単性論を異端とする。
D (1095)	中部フランス	ウルバヌス2世 (ローマ教皇)	第1回十字軍の遠征を決議。
E (1414～18)	南ドイツ (スイスとの国境、ボーデン湖畔)	ジギスムント (神聖ローマ皇帝)	教会大分裂（大シスマ）を解決。ウィクリフの説を異端とし、フスを火刑に処す。
F (1545～63)	北イタリア (南ティロル地方)	パウルス3世 (ローマ教皇)	宗教改革に対抗し、教皇の至上権を確認。

S4: 帝政ローマ

④元首政（プリンキパトゥス：前27～後284）

= プリンケプス（市民の中の第一人者、元首）+ 元老院との共同統治

アウグストゥス ⇒ ネロ ⇒ 五賢帝時代 ⇒ 軍人皇帝時代

パクス=ローマーナ
(ローマの平和)

- ①ローマ風都市建設 ②南インド・後漢との ① 貿易
③ ② 建設 ④ローマ市民権拡大

*『エリュトラー海案内記』（ ③ 語）… ガラス器・ブドウ酒・金貨をアジアへ

「3世紀の危機」（2世紀末～3世紀末）×ゲルマン人・ササン朝

- ①アウグストゥス = ④ 自称（元老院へ権力返還 ⇒ のちにコンスル等の官職を兼ねる）
②ネロ帝 = 師く ⑤ > ・ローマ大火（64年）⇒ 第1回キリスト教徒迫害
③ネルウァ帝（96～） = 五賢帝最初の皇帝・元老院推挙・養子相続（偶然？）
④トラヤヌス帝 = 初の ⑥ 出身・ダキア&メソポタミア占領 ⇒ 最大版図！
⑤ハドリアヌス帝 = ブリタニア長城・パンテオン再建・ユダヤ戦争（⇒ ユダヤ人の離散）
⑥アントニヌス=ピウス帝 = カレドニア長城・貧民救済事業・財政改革
⑦マルクス=アウレリウス = “ ⑦ ”（『後漢書』）・哲人皇帝（『 ⑧ 』, ⑨ 派哲学者）
= アントニヌス帝（～180）五賢帝のうち、唯一実子を後継者に指名した

～3世紀の危機～

- ⑧カラカラ帝 = ⑩ （212年）[← ユリウス法（前89）]
⑨マクシミヌス帝 = 軍人皇帝時代（235～284年）の始まり… 約50年で26人の皇帝が擁立
⑩ヴァレリアヌス帝 = エデッサの戦い（×ササン朝： ⑪ [260年]）で捕虜

⑧専制君主政（ドミナトゥス：284～395）オリエント風に

= 「我らの主（ドミヌス）」としての皇帝崇拝 + 元老院無視

⑦都）ローマ ⇒ ニコメディア ⇒ ⑫ ④ラティフンディア ⇒ コロナトゥス

- ①ディオクレティアヌス帝 = ⑬ ・キリスト教迫害（303～） ← ★1
②コンスタンティヌス帝 = ミラノ勅令（313）・ローマ再統一（324）⇒ ⑭ 公会議（325）
⑫ への遷都（330）・コロヌスの移動禁止令
ソリドゥス金貨（ ⑮ ）の使用・サン=ピエトロ大聖堂の造営
③ユリアヌス帝 = ⑯ 教崇拝（“背教者”とされた）・ギリシア古典文化復興
④テオドシウス帝 = キリスト教国教化（392）・東西分裂（395）
西）ホノリウスより（～476） 東）アルカディウスより（～1453）

■ローマ帝国関連図





前4c末
アッピア
街道



コロッセオ
(円形闘技場：1世紀)



コンスタンティヌスの凱旋門

カラカラ浴場



§6: ゲルマン人の大移動

④古ゲルマンの生活・大移動前 *先住民族 ① 人を圧迫

- ①キウィタスに基づく王制 ②民会中心 ③ ② 制 ④自然崇拜 → ③ 派
⑤ローマ内への浸透 (★1 • ★2 • ★3)
⑥史料 = ⑦ ④ 『ガリア戦記』(※ & ユェルキンゲトリクス) ⑧ ⑤ 『ゲルマニア』

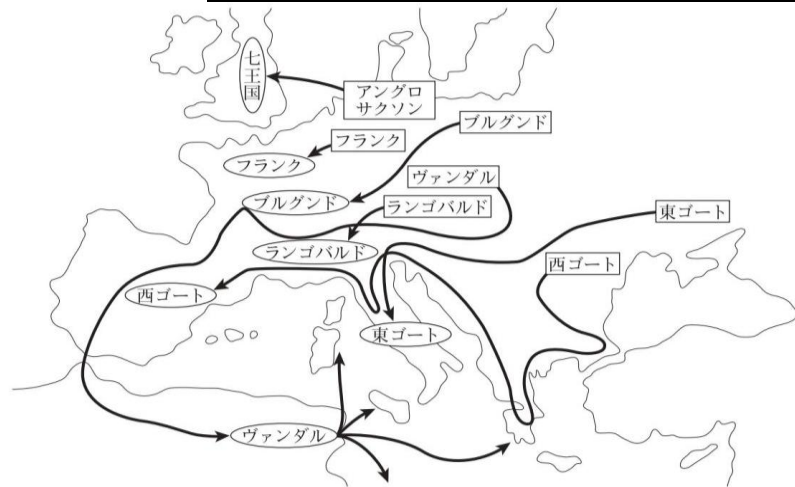
⑤民族大移動の要因その発端 ← 人口増加による土地不足

376年: ゲルマン人大移動開始 (⑥ 川越境) → フン人の圧迫で西ゴート人がローマ領内へ

410年: 西ゴート王 < ⑦ > によるローマ市掠奪 × 『神の国』

451年: ⑧ の戦い → 敗れたフン人は北イタリアへ南下 [× 教皇レオ1世による説得]

フン人 < ⑨ > (パノニアより) × 西ローマ・ゲルマン人連合





第3講

古代インド世界の盛衰

STATE BANK OF PAKISTAN



詳説世界史講義②

～2026年～



ADMISSION FEE AT
ARCHAEOLOGICAL REMAINS
MOEN-JO-DARO

RATES:

- | | | |
|-------------|---|-----------|
| 1 FOREIGNER | = | Rs: 200/= |
| 2 ADULT | = | Rs: 10/= |
| 3 CHILD | = | Rs: 5/= |

モエンジョ
=ダーロ



§5：古代インド世界の盛衰

① インダス文明（前2600～1800） *ジョン＝マーシャル（英）発掘

（遺跡） ① , ② , ドーラヴィーラー （民族） ③ 系
（特色） 青銅器, インダス文字 [印章], 沐浴, 牛の神聖化, 大麦栽培

② アーリヤ人社会（ヴェーダ時代）（前1500～600）

前1500：カイバル峠から ④ 地方へ → 前1000：ガンジス河流域に定着

① バラモン教（最古の祭典『 ⑤ 』, アグニ・インドラ） *サンスクリット語

② ヴァルナ（色・種姓）… 4階層 + 不可触民

バラモン・クシャトリヤ・ヴァイシャ・シュードラ

③ ジャーティ（出生）…世襲的な職業ごとの集団

⇒ 10c頃にヴァルナと結びつき, イギリス支配で拡大・強化

※「カースト」（血統）はこれらの社会階層と同意で使用

③ 十六国（マガダ国・コーサラ国など）並立時代（前600～317）

背景）統一気運・商工業発達 ⇒ 非バラモン階層の台頭

前7c： ⑥ （奥義書）哲学の発生（“ ⑦ ”により解脱） *輪廻転生 *業（カルマ）

前6c： 仏教・ジャイナ教成立（×バラモン祭式万能主義）

前5c： ⑧ 国シスナーガ朝がガンジス河流域を統一

〔南インドの王朝〕

- ① 34 朝（前1～後3c）… アーンドラ族, 季節風貿易（＋ローマ帝国）
- ② 35 朝（前3～13c）… タミル（族）文化, 海洋王国（×三仏斉）
- ③チャールキヤ朝（6～8c）… ヴァルダナ朝軍撃退, 南のパッラヴァ朝と対立
- ④パーンディヤ朝（前3～14c）… タミル文化, インド南端, 首都マドゥライ, ハルジー朝の侵攻で衰退
- ⑤パッラヴァ朝（3～9c）… タミル文化, バクティ運動の拡大
- ⑥ 36 王国（前5c頃～）… アーリヤ系, 上座部仏教, イブン=バットゥータや鄭和も来朝
- ⑦ラーシュトラクータ朝（8～10c）…デカン高原西部のヒンドゥー教王朝（× 31 朝）



⑩マウリヤ朝（前317～180） ～バクトリア王国の侵入で衰退

①チャンドラグプタ = ⑨ 朝滅ぼし建国，セレウコス朝を破りアフガニスタン獲得

②アショーカ王（阿育王：前268～232）＝カリンガ国征服（⇒仏教に皈依）

- ・石柱碑（ライオン柱頭）や磨崖碑， ⑩ （法）による政治，第3回仏典結集
- ・ ⑪ 建設（in サーンチー）
- ・ ⑫ 布教〈王子マヒンダを派遣〉⇒のちに上座部仏教の拠点
- ・ ⑬ 美術（クシャーナ朝で仏像製作・グプタ朝で最盛期）

⑪クシャーナ朝（後1～3c） ～ササン朝ペルシアの侵入で衰退

①カドフィセス＝イラン系クシャーン人が大月氏（バクトリア地方）より自立

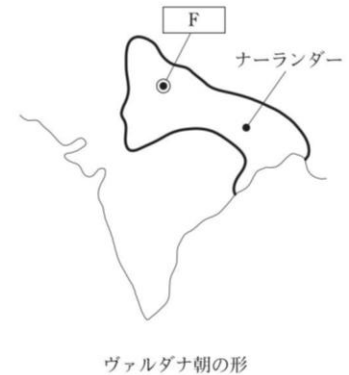
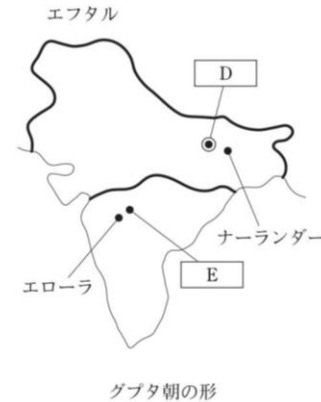
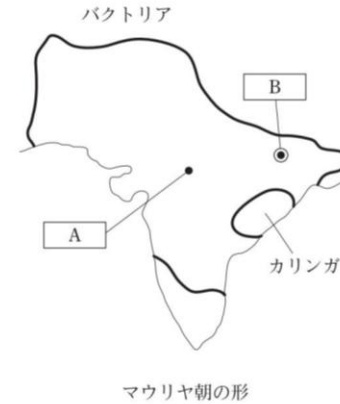
②カニシカ王＝仏像美術（ ⑭ 美術），第4回仏典結集 ＊サンスクリット語
⑭ 布教（＝大乗仏教の完成：竜樹（ナーガールジュナ）『中論』）

＊ 大乗仏教（菩薩信仰で広く衆生）× 上座部仏教（個人解脱）

菩薩＝仏陀になるため修行中のもの

上座部＝長老の教えを伝えるもの

■古代インド4王朝の動き



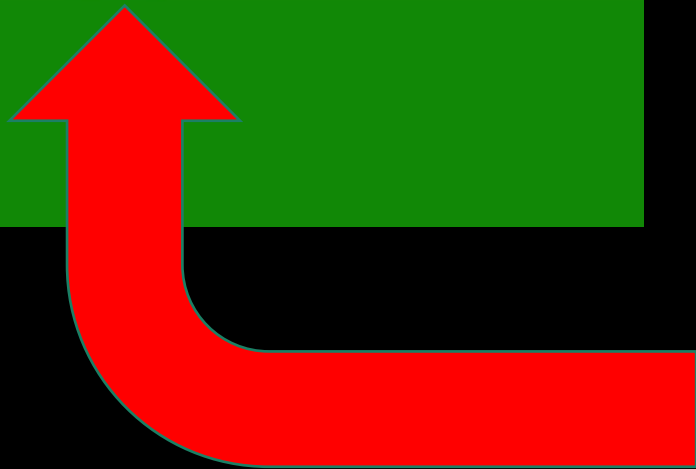




गान्धी

ライオン柱頭

法輪



チャルカー





ストウーパ
(サーンチー)



⑩マウリヤ朝（前317～180） ～バクトリア王国の侵入で衰退

①チャンドラグプタ = ⑨ 朝滅ぼし建国，セレウコス朝を破りアフガニスタン獲得

②アショーカ王（阿育王：前268～232）＝カリンガ国征服（⇒仏教に皈依）

- ・石柱碑（ライオン柱頭）や磨崖碑， ⑩ （法）による政治，第3回仏典結集
- ・ ⑪ 建設（in サーンチー）
- ・ ⑫ 布教〈王子マヒンダを派遣〉⇒のちに上座部仏教の拠点
- ・ ⑬ 美術（クシャーナ朝で仏像製作・グプタ朝で最盛期）

⑪クシャーナ朝（後1～3c） ～ササン朝ペルシアの侵入で衰退

①カドフィセス＝イラン系クシャーン人が大月氏（バクトリア地方）より自立

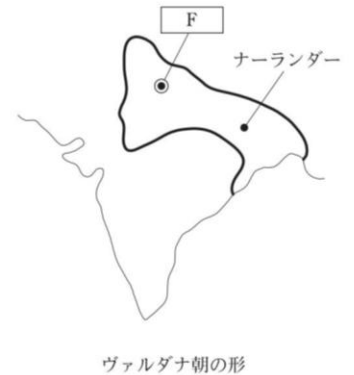
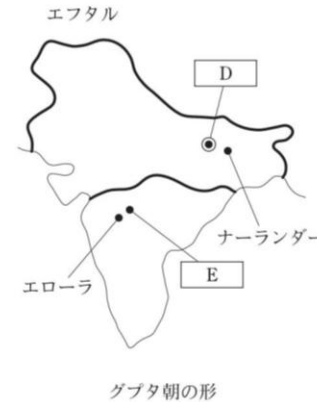
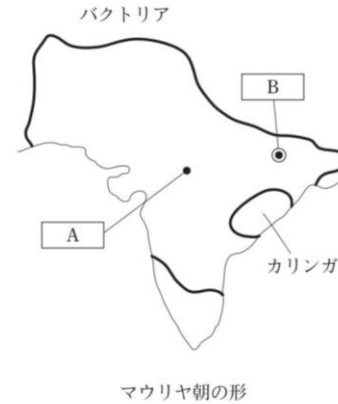
②カニシカ王＝仏像美術（ ⑭ 美術），第4回仏典結集 ＊サンスクリット語
⑭ 布教（＝大乗仏教の完成：竜樹（ナーガールジュナ）『中論』）

＊ 大乗仏教（菩薩信仰で広く衆生）× 上座部仏教（個人解脱）

菩薩＝仏陀になるため修行中のもの

上座部＝長老の教えを伝えるもの

■古代インド4王朝の動き





ガンダーラ仏
(ガンダーラ美術)



マトゥラー仏
(グプタ美術)

㊦グプタ朝 (320～550) ～遊牧民エフタルの侵入で一部衰退 ※異説あり

① Chandragupta 1 世 = 15 朝復興めざし建国, 「大王の王」と称した

② Chandragupta 2 世 (16 by 東晋時代の僧 17 『仏国記』)

a : サカ族を併合 (最大)

b : サンスクリット文学 (18 : 『シャクンタラー』『メーガドゥータ』)

c : 『マハーバーラタ』『ラーマーヤナ』二大叙事詩の完成

d : 「 19 」の発生 → イスラーム世界へ

e : 仏教 = 20 (学問), グプタ様式 (21 ・エローラ石窟寺院など純インド的) × ヘレニズム文化

f : ヒンドゥー教 = 22 ・ 23 ・ 24 神)

※ 『 25 』…前200～後200年頃にまとめられたインドの法典 (各ヴァルナの権利・義務を規定)

㊧ヴァルダナ朝 (7c) ～内紛で分裂

① Harsha 王 (26 by 唐僧 27 『大唐西域記』)

* 分裂期に 28 (唐僧) も来朝, 帰りに 29 に立寄る (『南海寄帰内法伝』)

㊨イスラーム侵入と南インド王朝

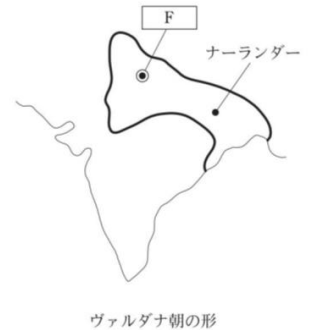
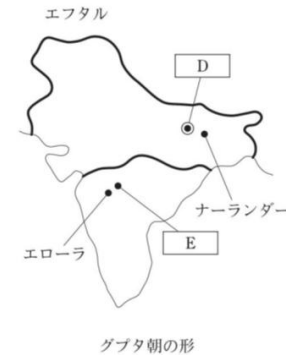
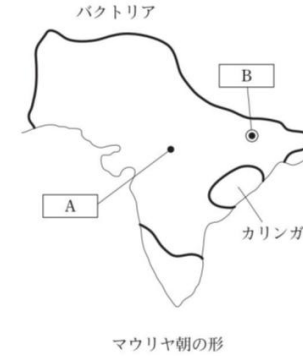
① 30 時代…「クシャトリアの子孫」を名乗る王国が分立・抗争…ヒンドゥー教

② 31 朝…8～12c, 最後の仏教王朝, 密教を保護, ベンガル地方…仏教

③ イスラーム侵入…8c: ウマイヤ朝 → 11c: ガズナ朝 → 12c: ゴール朝

→ 1206年: 32 王朝 (デリー = スルタン朝の始まり) by 33

■古代インド4王朝の動き





**アジャンター
石窟寺院**

2026/5/1

エローラ石窟寺院





アジャンターの壁画が
法隆寺にある？

